

地域振興団体のあゆみ

	地 域 振 興 団 体	設立の発端（きっかけ）	目指す方向（目標）	成 果
1	厚田区コミュニティ「ゆめ倶楽部」 旧 厚田区自治体育振興会 H18年10月26日設立	・厚田村体育協会時代実施していたスポーツ振興事業の継続	・2事業（ミニバレーボール・スキー大会）の継続 ・誰もが参加できる事業から地域間・世代間交流・親睦を図る ・「食」をからめた展開から区内外へ旬の食をPR・広める	・これまでの活動が継続できた（想いの継承） ・自主運営による事業継続の仕組みが構築できた（自立） ・おもてなし料理で厚田の旬の食をPR ・区内の交流から区外へも参画の和を広げ、スポーツ・食を通じて、厚田の良さを広めるチャンスとして活用できた
2	あつたの森支援の会「やまどり」 H20年03月02日設立	・森林を守り育てる大切さを後世に伝え広めたい	・森林に感心の高いメンバーが集い、森林を守る・山づくりに寄与 ・森林の歴史・大切さを子たち達に伝え広める ・山のすばらしさを多くの人と共有する	・キャンプ場隣接地 環境保全保安林をベースに活動を開始 ・活動を通して森林のすばらしさを体感 ・市との協働事業の展開を導く ・自主運営（自立）
3	NPO法人 あつたライフサポートの会 H20年03月29日設立	・地域の一番の課題は「足」・・・ 確保に向けた仕組みの構築	・地域課題である「交通」に主眼をおき、日常生活を支援 ・アンケート調査から→地域ニーズの把握⇒ 支援項目の絞り込み ・有償による事業化を目指す	・地域ニーズに答え、日常生活のサポートの一助となった ・地域交通、除雪事業の仕組みを構築 ・自主運営（自立）
4	厚田資料室サポートの会 旧 厚田資料室リニューアル構想策定協議会 H21年02月25日設立	・厚田の歴史、文化の伝承・PR・発信 ・入館者増を図る	・3千人入館を目指す（合併後入館者数 1/10に激減） ・集客増に向けた特色ある資料室のリニューアルに着手 ・4偉人に焦点を充てた展示へ（厚田村栄誉村民）	・1年をかけた議論からリニューアルオープンにこぎつけた ・来場者増に向けた様々な取り組みから目標の3千人を達成 ・厚田の歴史・文化の伝承を押し進めた
5	地域教育分科会 H22年02月17日設立	・地域振興策の1つとして制度を活用した特色ある教育を検討 （子供のいる若い世帯を取り込みたい 移住定住の促進に結び付けたい）	・学校運営協議会（コミュニティスクール）制度の導入 ・特色ある教育制度を活用することで、若い世帯を区内へ取り込めないか（移住定住の促進） ・「学校」「保護者」「地域」が一体となった教育の実現により、魅力的な学校づくりを進める	・子供の教育のためなら親が通勤してでも厚田の教育を受けさせたい と思う厚田ならではの教育を地域と共に創り上げることができる。 ・これからに期待
6	厚田アクアレール実行委員会 H22年12月10日設立	・地元で水彩画展を開催し、全道・全国から厚田に来て頂き、厚田をPR、知ってもらいたい ・厚田には絵になる題材が豊富（芸術家も多く在住）	・子供の頃から誰もがなじみある「水彩画」に着目 ・水彩画にこだわった展覧会を実施（全国的に少ない） ・全道・全国から厚田を訪れ・知ってもらう（来てもらうきっかけ）	・優れた作品の数々に触れる機会を創出した ・厚田を訪れるきっかけとなり、PR・知る機会が創出できた ・芸術、文化のすばらしさを再認識する場となった
7	厚田こだわり隊 H24年03月23日設立	・「地元野菜が食べられない」の多くの声から地元農産物を販売する直売所ができないだろうか	・直売所の運営（試験営業からスタート） ・商品の開発、発信から厚田をPR（ブランド豚望来豚の活用） ・区内外イベントで開発商品を販売、ブランド豚の美味しさを発信	・地元野菜直売は区民の楽しみとなった（土日 7～10月） ・望来豚を活用した取り組みから、商品開発へ結びつけた ・区内外でのイベント出店で、厚田をPRできた ・望来豚を活用した商品開発は継続中
8	地域賑わい呼びおこし隊 H28年05月12日設立	・朝市に更なる賑わいを・・・（朝一食堂のきっかけづくり）	・漁業関係者による朝一食堂の展開を導く ・朝市の魅力、集客に繋げたい（検証事業）	・将来漁業関係者による朝一食堂の展開を検討する人材が現れた ・朝市の魅力の一つになることが確認できた